

## 大ナゴヤ大学学長が経験する「社会起業」とは？

大ナゴヤ大学では、前回までにお話ししてきたさまざまな活動を11人のコアメンバーを中心に、支援者・発起人などの力をお借りしながら行っています。今回はその組織の成り立ちや、大切にしている「フラットな感覚」についてご紹介します。

2008年11月末よりスタートした開校プロジェクトを進める上で「まず100人の方にお会いしよう」という目標を立て、姉妹校シブヤ大学ディレクターとともに、生涯教育・まちづくりを進めている人、クリエイター、建築家、料理研究者やイベントプロデュー

### 組織の成り立ちとフラット感

てにたどりながらお会いしました。

現在「職員会議」と名付けて毎週行っている「ディネーター」は、得意定例ミーティング。ここに分野や興味範囲の広さ以外集まるコアメンバーは、そこに、人的ネットワークの広の際の出会いによってでき、授業企画全体を行うアタチームで、ほとんどが開校準備前には出会ったことが要求されるため、そのいのない人ばかりでした。あった分野でのスキルが高えて「異質」な顔ぶれでの組織、志の高い方にお願ひす織づくりを心がけたのは、ることとなりました。

各人の持つ人脈や情報のつながりを無限に広げていくため、同質性や既知の関

## あえて「異質」な顔ぶれ

### 用務員として同じ目線で参加



ミーティングでのコマ

役割に上下はな

目線で考えるフ

ラットな関係で

あることを何よ

りも大切にして

います。アドバ

イザーの方々に

も、通常であれ

ば「顧問」など

【NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネット 理事長 加藤 康】

④ サ、編集域のネットワーク基盤」に

者など各方成り難くなると感じたから

面で活躍さです。

れている方 中でも授業づくりという

々に、人づ 重要な役割を担う「授業コ

の難しさ、授業案内テキスト

の間違いなどによる意思疎通

の大変苦労をしました。

組織は、学長・事務局・

総務・広報・ブランド管理

やボランティアスタッフ対

応リーダー以外に、企画・

授業コーディネーターらで

構成していますが「生徒・

そして先生が主役でありそ

だいたいながら組織の社会的

信頼性を得ていくのが従来

の常識かもしれませんが、

業界のトップランナーの方

々が自らを「用務員」と名

乗り、快く名を連ねていた

だき、困った時の相談に乗

っていたいたり、また授

業に一般の学生さんとも

に参加されるなど、同じ目

線を楽しむ雰囲気をつくっ

ていただいています。

このように異なる価値観

を持ちながら、共通の目的

を持つメンバーがフラット

な活動する

